

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

(課名)

教育総務課	P 1
学校教育課	P 2
生涯学習課	P 4
文化財課	P 9
スポーツ推進課	P11
学校給食センター	P13

令和3年10月

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(教育総務課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和2年度の成果と課題	評価
教育委員会の活性化の推進	定例会・臨時会の開催状況	定例会・臨時総会の開催	定例会・臨時会の適切な時期の開催	奄美市教育委員会の行政組織等に関する規則で定められた毎月の規定日開催に努めた。 なお、市民に対して開かれた教育行政を推進する観点から、委員会を庁外の朝日中学校と奄美小学校で開催した。 定例会12回、臨時会2回	4
	議案の審議状況	審議件数の妥当性と委員の意見反映	委員の意見反映度	議案(報告)等の審議にあたっては適切な意見交換がなされ、教育行政へ反映された。 議案19件 報告11件	5
	教育委員の研修	研修の機会	県・地区等の研修内容	新型コロナウイルスの影響により、各種研修会が中止。	—
	教育委員の活動状況	教育委員会主催等行事への参加	学校、教委主催行事、その他行事の参加状況	学校訪問では、各委員の参加を頂き、経営に関する指導や学校側との情報共有が行われた。なお、新型コロナウイルスの影響で学校や教育委員会関連行事については、最小限の参加となった。	3
学校施設等長寿命化計画の推進	実施時期の検討	施設の健全度	業務委託の調査内容から適正な実施計画への反映	令和元年度3月末策定の学校施設等長寿命化計画に基づき、令和3年度以降の実施計画を策定した。5年毎に見直しを行い、緊急性の高い施設への対応等を行う。	4
良好な教育環境整備の推進	安心・安全な学校づくりと教育施設整備状況	施設整備と修繕等	主な施設整備の工事及び修繕等実績	各学校、教員住宅等における改修工事や修繕等実施。なお、緊急性があるものは優先的に行い、教育現場の環境維持保全に努めた。時期にもよるが規模の大きな修繕等においては年度内での対応が難しい。 実績:小学校 249件, 中学校 169件, 教職員住宅 121件	4
ふるさと創生人材育成基金事業の充実	奨学資金の貸付・返還状況	出願者数及び返還状況	新規奨学生及び返還者実績	令和2年度新規奨学生及び継続奨学生を含め42人に奨学金の貸与を行った。また、複数年に渡る滞納者に対し、催告通知を行い滞納額の減少に努めた。	3
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業	島外で頑張る学生応援事業実施状況	事業の周知及び申請状況	事業実績	コロナ感染症拡大の影響で、世帯収入やアルバイト収入の減少等により「学びの継続」が困難となっている島外の学生に、1人あたり30,000円の経済的支援を行った。当初は、申請件数が低調であったが、周知方法などの改善を図り、899名へ支援を行った。	4

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(学校教育課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和2年度の成果と課題	評価
「確かな学力」 の定着・向上	鹿児島学習定着度調査(小5年:4教科, 中1・2年:5教科)	県平均通過率を上回った教科の延べ数	県平均との差	小5は,2教科で県平均を超え,算数は県平均並み,理科は下回った。中1・中2については,4教科で県平均を超え,数学については県平均を下回り課題は残るが県平均との差は小さくなっており,昨年度と比較して中学校は学力を高めてきている。学力が昨年度と比較して高まっているが,県平均を超えることができるよう今後も,学力の向上と確実な定着を図る取組を継続していく必要がある。	4
	標準学力検査(小1~2年2教科,小3~6年4教科,中1~3年5教科)	全国における指数(偏差値)	前年度より学力が高くなった学校	小学校では8校,中学校では5校が,昨年度と比較して学力が高まっている。全体的に学力が高まってきており,小学校では全国と大きく差が広がっている学校はない。一方で,中学校は全国と比較して,下回る教科もみられることから,今後も継続して学力向上を図っていく必要がある。	4
	一人一研究授業	各学校における研究授業の取組	研究授業の実施状況	市内の98%強の教員が,一人一研究授業を行った。このことも影響し,小学校では8校,中学校では5校が,昨年度を比較して学力が高まっている。中学校は全国と比較して,下回る教科もみられることから,今後も継続して授業を通した学力向上を図っていく必要がある。	4
	指導主事派遣	年間を通した指導主事の派遣状況	派遣回数 目標100回	1年間を通しての校内研修への総派遣回数は89回(89%)であった。コロナ禍や要望日程の重複により目標達成に至らなかったが,派遣日と行事との日程を今後更に調整し,今後も学校のニーズに応じた指導助言ができるようにしていく。	4
	奄美授業セミナー	実施教科及び参加人数	参加人数の増減(目標40名以上)	小中で各2教科(小学校:理科・算数,中学校:理科・数学)の講師を招聘し,授業づくりや模擬授業をとおして授業力向上を図る予定であったがコロナ禍で中止した。	—
	小・中連携研修会	授業をとおした研修会を実施した学校	中学校区単位での実施率	市内33校のすべての小・中学校において,中学校区を中心に生徒指導上の課題や学力向上の課題を共有して,共通実践事項を策定したり,児童生徒の情報交換をしたりするなど,連携を図ることができた。また各中学校で研究授業を行う際には,中学校区の小学校にも参加を呼び掛けている。	4
	特別支援教育支援員配置事業	配置 資質向上 連携	適正な配置 研修の実施 事務局との連携	令和2年度については,32名の支援員を確保し,サポートを必要とする児童生徒の一人一人に寄り添い適切な支援を行うことができた。研修については,養護学校から外部講師を招へいするなど,内容を充実させ,年2回実施することができた。	4
	講師配置事業 (「あまみっ子」すくすくプラン)	配置基準学級数 に対する実際の 配置	達成割合	小学校5,6年で1学級36人以上在籍している1小学校(伊津部小学校5年生)に1人の講師を配置することができた。配置した学校の教員,保護者からも好評である。少人数指導や学力向上に向けた取組を図ることができた。	5

不登校児童生徒への対応	あまみスクールソーシャルワーカー配置事業	長期欠席児童生徒への対応	相談・訪問後における児童生徒の通級、登校等の状況改善	教育相談員等研修会を2回、SSWのみの研修会を1回実施した。市当局及び各関係機関と連携を図りつつ、具体的な情報共有を行うことができた。 主に福祉関係、児童相談所と連携を図ることで、児童生徒のおかれている環境の改善に向けて、各家庭に働きかける態勢づくりを行うことができた。	4
	あまみスクールカウンセラー配置事業	不登校もしくは不登校傾向にある児童生徒・保護者への対応	教育相談	名瀬地区の中学校を中心に定期的に巡回し年間81回のカウンセリングを実施することができた。要請があれば小学校へも派遣し、保護者や児童生徒の悩みや相談に応じることができた。	4
	ふれあい教室相談員配置事業	不登校もしくは不登校傾向にある児童生徒への対応	相談・訪問後、通級、登校に至った児童生徒数	学校からの依頼に応じて、10名(小学校3名中学校7名)の通室があった。必要に応じて家庭訪問を実施したり、担任と連携したりするなどして、「社会的自立に向けた」支援を行うことができた。	4
学校ICT環境整備	小中学校ICT環境整備事業	GIGAスクール構想における環境整備	タブレット端末整備率・普通教室等への校内ネットワーク整備率	GIGAスクール構想のに基づき、児童生徒1人1台配備できるよう3,773台のタブレット整備を行った。 また、それに伴い普通教室や特別教室・体育館等へのWi-Fiの整備を行い、誰一人取り残さない、個別最適化された学びに向けた環境作りを行うことができた。	5
	校務用支援システム導入事業	校務支援システム・グループウェアの整備	校務支援システム・グループウェアの整備状況	全校に統合型校務支援システム、校内グループウェアを導入し、校内での成績管理・情報共有や業務のデータ化をし業務効率化を図ることができた。	5
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	新型コロナウイルス感染症対策用品整備事業	学校における新型コロナウイルス感染症対策用品の整備	対策用品の整備状況	学校の規模に応じ消耗品や備品を購入(5,654,031円)し、徹底した対策と学校生活の安全性の維持を図ることができた。	5
	卒業の思い出作り応援事業	卒業生を対象に思い出作りイベントを実施した学校への助成	卒業生人数に対する実施対象人数、助成状況	市内小・中・高校までの卒業生を対象に学校単位で実施した思い出作りイベントの実績に応じ助成することにより応援することができた。 卒業生人数1,260名(37校)に対し、イベント実施に係る助成対象人数は1,200名(31校)であった。 助成総額 5,825,745円	5
	特認校バス運行業務(増台)	新型コロナウイルス感染症対策として特認校バス運行において増台	増台の状況	芦花部小中学校・崎原小中学校に対し運行している特認校バスを6月から3月まで1台ずつ増台したことにより、通学における新型コロナ感染症対策を徹底し、児童生徒の安全の確保ができた。	5

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(生涯学習課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和2年度の成果と課題	評価
家庭・地域の教育力向上	家庭教育に関する学習機会の充実	「家庭の日」の普及・啓発、定着	市民清掃への参加状況	市民清掃を実施できた月は、教育長の巡回に加え、各学校から参加状況報告をいただいた。12月から2月までの児童生徒の市民清掃への出席率は40%弱であった。部活動や少年団も家庭の日には活動を行わず、「家庭の日」は着実に普及してきている。	3
		子育て講座の推進	参加者数 内容の充実	参加者数 698人(27講座) 家庭教育支援員養成研修会(県事業)への参加者や読書団体など多種多様な方々の活用を図っている。	4
		幼・小・中学校での家庭教育学級の学習内容の充実	参加者数 内容の充実	講座合計数156回、各校講座回数平均4.9実施 全幼・小・中学校で実施され、「家庭学習に関する内容」「人権教育」「奄美の良さを学ぶ内容」を必須課題として実施。学習内容や実施日時等、参加者を増やすために創意工夫し実施されていた。	4
青少年健全育成の充実	奄美市青少年育成市民会議	奄美市青少年育成市民会議	参加者数 内容の充実	参加者数 委員数 28人中26人出席 それぞれの所管事項についての報告や説明があった。奄美市いじめ問題対策連絡協議会と兼ねることを確認し、各団体同士の連携強化を図った。	4
		笠利町青少年育成市民会議	参加者数 内容の充実	参加者数 委員数 48人中 1回 30人出席 2回 新型コロナウイルスの影響により中止 内容の充実 青少年健全育成の推進方策及び夏冬休業期間における推進事項の確認 各小・中・高・派出所・保護司からの青少年育成に関する現状報告 令和元年度の社会教育・社会体育関係行事の説明	4
		愛の声かけ運動の実施	参加者数 活動内容の充実	参加者数 114人 通常活動 計画6回 実施3回 雨天中止3回 特別活動 計画3回 実施なし 六月灯、交通マナーアップキャンペーン (新型コロナウイルスの影響により中止)	4
	子ども会加入促進	会員数	会員数 幼児 46人 小学生 2,268人 中学生 540人 高校生 56人 保護者(指導者含む。) 427人 計3,337人 会員数(児童生徒数)が減少傾向にある。	4	

子ども会活動の充実	市子ども大会及び球技大会の実施	参加者数 内容の充実	【子ども大会】 新型コロナウイルスの影響により中止	—
			【名瀬地区子ども会対抗球技大会】 新型コロナウイルスの影響により中止	
	笠利地区子ども会交流会	参加者数 内容の充実	【自然の家がやってきた in 笠利】 参加者数234名 幼児 42人、小学生 97人、中学生 5人、成人 90人 創作・体験活動コーナー、ふれあい体験活動コーナー等のブースを設け、創作活動の重要性や必要性を学ぶ活動を行えた。	4
	奄美大島5市町村合同イン・リーダー研修会の実施	参加者数 内容の充実	台風接近のため中止	—
PTA活動の充実	家庭教育における4つの運動推進	周知・実績	「家庭教育に関する4つの運動の推進」の具体例を記入した資料を作成し、各小中学校へ配付するとともに、管理職研修会、PTA研修会等で活用を依頼した。	4
	PTA研修会の実施	参加者数 内容の充実	参加者数 総会38人(規模縮小)・研修会 中止 ゆらおう会 中止 県PTA広報紙コンクール(小学校の部) 最優秀賞 朝日小学校PTA 生涯学習推進大会・市P連研修会 250人	4
体験活動の充実	長野県小川村青少年交流事業の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
	群馬県みなかみ町青少年交流事業の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
	「ふれあい和光塾」の実施	参加者数 内容の充実	参加者数19組94人 施設の高齢化により、ハンセン病患者とのふれあいという当初の目的達成が困難なために、令和3年度をもって終了する予定。 市主催の野菜栽培講習会の案内を行った。	3

生涯学習の推進	生涯学習機会の充実	「奄美市まなび・福祉フェスタ」の実施 ↓ 生涯学習推進大会・市P連研修会の実施	参加団体数 来場者数 内容の充実	来場者数（ホール250人） 家庭教育リーフレットの啓発を行った。 その他に「みんなで輝かせよう！あまみっ子」と題し、島口による小・中学生の夢の発表、各高等学校からの発表、各種事業参加者による体験・活動発表も取り入れ、より充実した発表の場となった。	4
		すみようふれあいフェアの充実	参加者数 来場者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
		笠利まちおこしフェスティバルの充実	参加者数 来場者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
		「奄美こども環境調査隊」の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
	生涯学習に関する研修会の充実	ジュニア・リーダー研修会への参加促進	参加者数 内容の充実	県子ども会ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会 参加者数 4人(中学生2人 高校生 2人) ジュニア・リーダークラブ「TsuMuGi」会員数の増加 31人(高校生26人 中学生5人) 研修会やボランティア事業を実施	4
		指導者等研修会への参加促進	参加者数 内容の充実	参加者数 地区社会教育関係団体指導者等養成研修会 女性団体2人 PTA5人 子ども会1人 高齢者1人	4
	生涯学習講座の充実	公民館活動の充実「名瀬公民館及び3分館」	利用者数 図書貸出冊数 講座数 講座生数 自主事業の充実等	利用者数 61,214人 図書貸出冊数 17,427冊 講座生数 920人(修了者 784人) 自主事業 ワールド川柳, 英語DEアートなど他にない事業実施が図られた。	4
		公民館活動の充実「住用公民館」	利用者数 図書貸出数 講座数 講座生数 自主事業の充実等	利用者数 7,582人 図書貸出冊数 1,198冊 講座数 10講座 講座生数 119人(修了者 52人)	4
		公民館活動の充実「笠利公民館」	利用者数 図書貸出冊数 講座数 講座生数 自主事業の充実等	利用者数 5,204人 図書貸出冊数 10,984冊 講座数 33講座 講座生数 803人(修了者 274人)	4

		公民館等生涯学習の拠点整備推進	計画の推進	「市民交流センター」建設が進められると同時に内部設計に係わるに業者との連携を密に図った。	4
		市民交流センターの建設	計画の推進	生涯学習の拠点となる「市民交流センター」の建設を進めた。令和3年9月末完成予定。	4
文化の振興	文化活動の推進	奄美市少年少女合唱団	団員数 指導者数 活動充実	団員数 34人(小学校27人・中学校7人) 指導者数 5人(指導者3人・伴奏者2人) 練習日を基本毎週1回(土曜日)とし練習,生涯学習推進大会に出演した。 団員数は増えたが,継続して参加する団員は限られている。 コロナ禍における活動について指導者と協議しながら柔軟に対応している。	4
		「奄美市民文化祭」	出品数 舞台発表数 来場者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
		「奄美市美術展覧会」	出品数 来場者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
		奄美市文化協会の活動支援	会員数 活動内容の充実	会員数 98団体,1,277人 協会加入団体は増え,団体ごとの活動は新型コロナウイルスの影響により,縮小されたが,協会としての活動は名瀬文化協会の役員を中心に積極的に活動した。	3
		小・中学生を対象とした九州・全国大会への参加費助成	参加助成実績	新型コロナウイルスの影響により実績無し	—
		自主文化事業の推進	観客数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—
		伝統文化保存事業の推進	周知・実績	新型コロナウイルスの影響により中止	—
		青少年の芸術鑑賞会等の実施	観客数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止	—

		芸術文化功労賞	功労者数	生涯学習推進大会時に表彰を行った。 芸術文化功労賞(個人):7人 芸術文化功労賞(団体):1団体 青少年健全育成賞(個人):2人 地域貢献賞(個人):7人 地域貢献賞(団体):2団体	4
		奄美市民歌制定事業の推進	音源及び映像制作	音源制作 作曲に係る現地視察・調査(ヒアリング)や音源収録を実施した。 映像制作 奄美市民歌の広報の一環として市民歌の曲調や歌詞に沿った内容且つ本市の魅力を紹介できる映像を制作した。 奄美市民歌～輝く未来へ～を令和3年3月20日に制定した。	4
		奄美振興会館の充実	利用者数 自主事業の充実等	利用者数 58,934人 舞台照明設備部品交換修繕等を行い、施設運営の充実を図った。 新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底し、適切な運営が図られた。 自主事業は、新型コロナウイルスの影響により中止	4
社会教育関係 団体等の育成 ほか	社会教育関係 団体の指導・育成 成人式の充実	地域女性団体連絡協議会活動の充実	会員数 内容の充実	会員数 1,000人(名瀬280 住用140 笠利580) 社会教育指導員1名を配置し、指導・育成を行なっている。	4
		名瀬地区新成人のつどいの実施	参加者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止 その代替事業として、成人式実行委員会を中心に作成した新成人祝賀映像を1月3日からyoutube配信を行った。	4
		住用町成人式の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止 成人式の代わりに、成人式実行委員会を中心に作成した新成人祝賀映像を1月3日にyoutube配信を行った。	4
		笠利町成人式の実施	参加者数 内容の充実	新型コロナウイルスの影響により中止 参加予定だった人数 男性23名、女性33名、計56名 成人式の代わりに、成人式実行委員会を中心に作成した新成人祝賀映像を1月3日にyoutube配信を行った。	4

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(文化財課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和2年度の成果と課題	評価
子どもたちの 情操育成事業	シマグチ伝承推進 活動	学校での取組推 進, 地域行事へ の積極的な参加	シマグチ・シマユムイタの伝承 活動の推進を図る。	「先人に学ぶ 島口教訓カレンダー」を必要に応じて幼稚園及び小中学校へ配付するとともに、各学校で地元の講師を招聘して、シマグチ伝承推進活動に協力した。 また、シマグチを話せる教諭が少なくなってきたため、音声教材が必要となり、今年度は赤木名中学校区版の音声CDを作成した。 今後も、シマグチをはじめとした文化活動の伝承を図るため、引き続き学校での取り組みを続けていく必要がある。	5
社会教育施設 (文化財保護施設)の管理運営	宇宿貝塚史跡公園の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行うとともに、展示環境の整備・充実を行い、入館者増を図る。	入館者数の目標値1,500人に対してコロナ禍の休館(70日間)もあり、767人に留まった。 建物の老朽化に伴い、雨漏れや屋根の騒音が進行しているため、令和3年度からは保存活用計画の策定を予定しており、抜本的な改修に向けて取り組む必要がある。	4
	奄美博物館の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行うとともに、展示環境の整備・充実を行い、入館者増を図る。	入館者数の目標値10,000人に対して、コロナ禍の休館(70日間)もあり、7,991人に留まった。 展示リニューアルした奄美博物館の展示内容を掲載した公式ガイドブック「博物館が語る 奄美の自然・歴史・文化」を刊行し、新たな博物館を周知・広報し、来館者増を図った。 今後は、経年劣化箇所の修繕など境整備に努めるとともに、講演会や講座等のイベントを積極的に開催し、市民の来館者増加を目指す。	5
		入館料収入	入館料収入	2,000,000円の予算額に対して、970,420円の入館料収入であった。	4
		講座・講演会等の実施	館内での講座や講演会等を実施するとともに、学校や地域・職場等に出向いた講座・講演を受諾し、情報の発信を行う。	世界自然遺産登録を視野に入れた講座等の開催や、他機関・団体との連携による講座・講演会・シンポジウムを6回開催した。(延べ人数:150名) また、島内各地の学校や各種団体の出前授業25回開催した(延べ人数1,406人) 古文書解読自主講座(13回:298人)及び古文書サークル(16回:172人)への支援協力を引き続き行った。 今後は、奄美の自然・歴史・文化に関する最新の研究成果を展示に反映させていきたい。	5
	歴史民俗資料館の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行うとともに、展示環境の整備・充実を行い、入館者増を図る。	入館者数の目標値2,000人に対してコロナ禍の休館(70日間)もあり、1,398人に留まった。 受付前の展示を一部更新し、来館者増を図った。 当館は開館から約40年経過し、老朽化が激しいため、今後の施設のあり方を検討していく必要がある。	4

新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	お家で奄美デジタル博物館事業	新しい時代の新しい博物館の提案	奄美大島の大自然、歴史・文化の映像を発信し、奄美市のプロモーション活動を行う。	「お家で奄美デジタル博物館事業」を実施し、奄美大島の季節の自然(秋・冬・昼・夜Ver.)及び小湊フワガネク遺跡に関する高精細映像を制作するとともに、奄美の自然・歴史・文化に関する「奄美遺産ホームページ」などを公開した。令和3年度においても、高精細映像(春・夏Ver.)を制作する予定である。	5
文化財保護事業	文化財保護総務事業	指定文化財の保護と活用	審議会委員の意見等を反映して保護と活用を図る。	開発計画及び行為に対して協議(埋蔵文化財に係る照会と調整:14件,天然記念物に係る照会と協議:7件)を行った。指定文化財の案内板3基を設置するとともに、文化財所在地周辺の草木伐採を実施し、環境の整備を行った。「奄美旧暦行事カレンダー」をA4版を5,000部、A3版を1,000部印刷・刊行、販売し、全国各地の奄美出身者や奄美ファンの方々に、奄美の魅力を伝えた。	4
	小湊フワガネク遺跡保存活用事業	国指定史跡及び重要文化財の啓発普及事業	所在地域との連携・協力。啓発普及活動(学習会)の開催。	史跡小湊フワガネク遺跡の保存活用計画に基づき、文化財標柱を2基設置した。今後は、『小湊フワガネク遺跡保存活用計画書』に基づき、恒久的な遺跡の維持管理及び保存活用を図る必要がある。	5

「市民体育祭」の開催	体育祭を通じた市民の一体感の醸成	奄美市民体育祭への参加人数	市民体育祭への参加人数を増やし、市民の体力増進や8地区の融和を図る。	<p>市民体育祭は、市民の健康増進と体力の向上を図り、親睦融和を基調として、市民生活を明るく豊かにするとともに、市民の一体感を醸成する目的で開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。</p> <p>参加人数 令和元年3,611人(H30 4,300人)</p>	2
スポーツ合宿の実施	スポーツ合宿による交流人口の拡大	合宿団体数・実人数・延宿泊人数	合宿に来られるチームの監督・選手のニーズを把握し、より良い合宿地環境作りに努める。	<p>スポーツアイランド構想に基づき、実業団陸上チーム等の合宿の継続誘致に努め、スポーツ合宿による交流人口拡大及び地域経済の活性化を図った。また、合宿環境整備に努めた。</p> <p>団体数 69団体(R1 78団体) △9団体 実人数 730人(R1 948人) △218人 延宿泊人数 7,911人泊(R1 9,196人泊) △1,285人泊</p> <p>※スポーツ合宿の団体数・実人数が前年に比較し、若干減っているが、コロナの影響により感染を恐れ合宿をキャンセルする団体が出たことが原因。</p>	4

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(学校給食センター)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和2年度の成果と課題	評価
学校給食センターの管理運営	運営委員会の開催	年2回開催	給食センターの運営を適正かつ円滑に行うために委員の意見を反映	コロナ禍において、両センターとも1回しか開催できなかった。名瀬・住用地区の学校給食センターにおいては、3月に開催し、委員からの意見を反映した。また、笠利学校給食センターにおいては、2月に開催し、委員の意見を反映させた。	3
	給食担当者会の開催	学校と給食センターの連携	学校と給食センターの連携と情報の共有	コロナ禍において担当者会は開催できなかったが、それぞれの学校と共通認識を図りながら、連携をとり情報の共有に努めた。	4
安心安全な給食の提供	衛生管理の徹底	衛生管理の徹底を行うための工夫	調理場における汚染区域と非汚染区域の区域分け	調理場における汚染区域と非汚染区域の区域分けや手洗い、消毒の徹底を行った。また、納入食材の細菌検査を学期に1回、調理機器の細菌検査を年1回行っている。腸内細菌検査を月2回、全職員を対象に実施し衛生管理の徹底に努めた。	5
	食物アレルギー対応の充実	保護者との面談の実施	面談を行うことにより、個々の対応を実施	食物アレルギーは、命に関わることも考えられるため、保護者との面談を実施し、確実に細心の注意を払って行うよう努めた。 (対象者) 名瀬・住用地区 70名 笠利地区 16名	4
	災害に強い学校給食センター	災害が発生した時の対応	災害が発生した時の対応及び今後の対策	万が一、道路の寸断や給食センターが被害にあい、給食の提供ができないことを想定し、各学校へ非常食の備蓄を行った。 台風対策として、令和元年度には施設強化のため、雨戸・戸袋設置工事を行った。	5
	地場産品の積極的な活用	県内産を含めた地場産品の活用	地場産品の活用と郷土料理による給食の提供	これまでの自校方式と同様に、地場産品の活用と郷土料理による給食の提供を実施し、食育及び食文化の継承に努めた。	4
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	新型コロナウイルス感染拡大防止	新型コロナウイルス感染拡大防止のための学校休校措置	学校給食費の減免	新型コロナウイルス対策事業として、4月・5月分の学校給食費の減免を行った。 (対象者) 名瀬・住用地区 小学生 2,200名 中学生 1,050名 笠利地区 小学生 316名 中学生 144名	5